

# 千葉市感染症発生動向調査情報

2025年 第46週 (11/10-11/16)

## 1 定点把握対象感染症(五類感染症の一部)

定点	報告定点医療機関数			
	第46週	第45週	第44週	第43週
小児科	16	16	15	16
ARI(急性呼吸器感染症)	26	26	26	26
眼科	5	5	5	5
基幹	1	1	1	1

上段:報告患者数、下段:定点当たりの報告数

定点当たりの報告数:報告患者数/報告定点医療機関数

定点	感染症	発生動向	11/10-11/16 第46週	11/3-11/9 第45週	10/27-11/2 第44週	10/20-10/26 第43週
小児科	RSウイルス感染症		2 0.13	4 0.25	7 0.47	8 0.50
	咽頭結膜熱		0 0.00	0 0.00	1 0.07	0 0.00
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↑	31 1.94	16 1.00	35 2.33	24 1.50
	感染性胃腸炎	↑	62 3.88	57 3.56	63 4.20	44 2.75
	水痘		3 0.19	1 0.06	3 0.20	2 0.13
	手足口病		6 0.38	4 0.25	8 0.53	7 0.44
	伝染性紅斑		2 0.13	1 0.06	4 0.27	2 0.13
	突発性発しん		0 0.00	2 0.13	2 0.13	6 0.38
	ヘルパンギーナ		0 0.00	5 0.31	7 0.47	12 0.75
ARI	インフルエンザ (高病原性鳥インフルエンザを除く)	★★↑	1,196 46.00	662 25.46	499 19.19	252 9.69
	新型コロナウイルス感染症		23 0.88	18 0.69	29 1.12	29 1.12
	急性呼吸器感染症	↑	2,111 81.19	1,778 68.38	2,201 84.65	1,529 58.81
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎		2 0.40	1 0.20	2 0.40	8 1.60
基幹	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	インフルエンザ入院	↑	1 1.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	新型コロナウイルス感染症入院	↑	3 3.00	0 0.00	5 5.00	3 3.00

※「発生動向」欄のマークについて

<流行状況>

★★:「警報レベル」流行発生警報開始基準値以上(終息基準値を下回るまで継続表示)

★:「注意報レベル」流行発生注意報基準値以上

※警報レベル・注意報レベルについては、市感染症情報センターWebSiteの「警報・注意報の解説」のページをご覧ください。.

<増減>:マークの対象は当該週又は前週の定点当たりの報告数が1.00以上

↑・↓:「増加・減少」定点当たりの報告数が前週より5%を超えた増加または減少

## 2 全数報告対象感染症 19 件

	感染症	性別	年齢層	感染症	性別	年齢層
結核	患者	男	20歳代	百日咳:11件	男	10歳未満 1
	患者	男	20歳代		男女	10歳代 3
	患者	男	20歳代		男	40歳代 1
	患者	男	80歳代		男女	50歳代 2
レジオネラ症	男	70歳代		女	60歳代 2	
急性弛緩性麻痺	女	10歳未満		女	70歳代 2	
侵襲性肺炎球菌感染症	男	60歳代		-	-	-
	男	70歳代		-	-	-

結核4件(134)、レジオネラ症1件(9)、急性弛緩性麻痺1件(1)、侵襲性肺炎球菌感染症2件(17)、百日咳11件(971)の発生届があった。

※ ()内は2025年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが隨時訂正されるため変化します。

## 3 定点当たり報告数 第46週のコメント

### <A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

前週より増加し1.94となった。年齢階級別の報告数は7歳が最多。

### <感染性胃腸炎>

前週より増加し3.88となった。年齢階級別の報告数は2歳が最多。

### <インフルエンザ>

前週より増加し46.00となり、流行発生警報開始基準値(30.0)を上回った。過去5年の同時期と比べ最多。年代別の報告数は0-9歳(合計)が最も多く、5歳が最多。

### <急性呼吸器感染症>(第15週から調査開始)

前週より増加し81.19となった。年代別の報告数は0-9歳(合計)が最も多く、5-9歳が多かった。

### <インフルエンザ(入院)>

前週より増加し1.0となった。

### <新型コロナウイルス感染症(入院)>

前週より増加し3.0となった。

■ 各感染症のグラフ、インフルエンザ発生状況は、市感染症情報センターWebSiteでご覧いただけます。

・感染症発生グラフ

<https://www.city.chiba.jp/hokenfukushi/iryoeisei/khoken/kkagaku/idsc/documents/graph2025.pdf>

・インフルエンザ発生状況

<https://www.city.chiba.jp/hokenfukushi/iryoeisei/khoken/kkagaku/idsc/documents/influ2025.pdf>

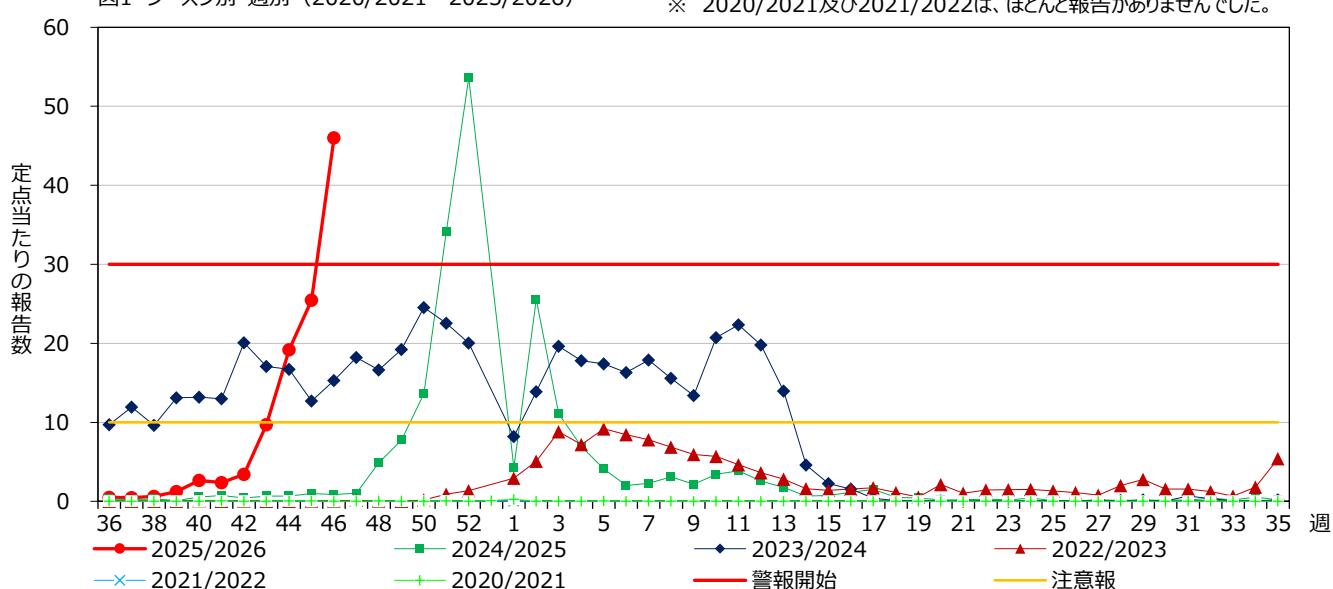
### ■ トピック ■

### <インフルエンザ>

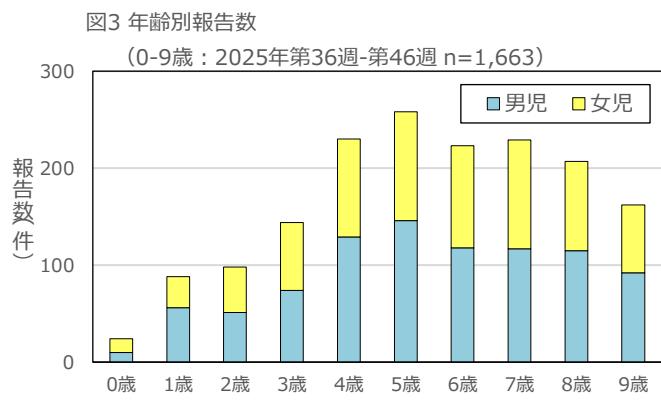
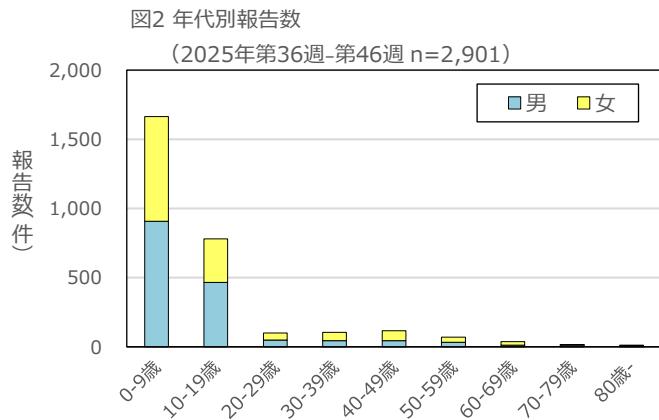
全国の第45週現在の定点当たりの報告数は21.82で、過去5年の同時期と比べると最多となっています。都道府県別では、宮城県(47.10)が最も多く、次いで埼玉県(45.80)、神奈川県(36.60)の順となっています。千葉県は29.95で、全国と比べると多くなっています。

インフルエンザは毎年第36週から翌年の第35週までの1年間を1シーズンとしています。千葉市の定点当たりの報告数は第44週に19.19となり流行発生注意報基準値(10.0)を上回った後、第46週は46.00となり流行発生警報開始基準値(30.0)を上回りました。昨シーズンに比べて、今シーズンは5週間早く同基準値(30.0)を上回っていることから、今後の流行状況の推移に注意が必要です(図1)。

図1 シーズン別・週別 (2020/2021~2025/2026) ※ 2020/2021及び2021/2022は、ほとんど報告がありませんでした。



今シーズンである2025年第36週から第46週まで、定点医療機関からの患者報告数は男性1,575件(54.3%)、女性1,326件(45.7%)の2,901件であり、年代別の報告数では0-9歳が1,663件(57.3%)と過半数を占め、次いで10-19歳(780件、26.9%)の順となっています(図2)。0-9歳(1,663件)における年齢別の報告数では、5歳(258件、15.5%)が最も多く、次いで4歳(230件、13.8%)、7歳(229件、13.8%)となっています(図3)。



定点医療機関の協力による今シーズンの2,901件の型別迅速診断結果は、A型2,413件、B型9件、A型及びB型15件、A型またはB型42件、未実施421件となっています。

インフルエンザをはじめとする感染症の予防には、「手洗い」「マスクの着用を含む咳(せき)エチケット」などが有効です。特に、高齢者や基礎疾患のある方が感染すると、重症化するリスクが高まります。高齢者と会ったり、通院や大人数で集まつたりするときは、マスクの着用を含めた感染症対策へのご協力をお願いします。

また、インフルエンザワクチンには、発症をある程度抑える効果や、重症化を予防する効果があり、特に高齢者や基礎疾患のある方など、罹患すると重症化する可能性の高い方には効果が高いと考えられます。

その他、適度な湿度の保持、十分な休養とバランスのとれた栄養摂取、人混みや繁華街への外出を控えるといった対策をすることが大事です。

詳細は、以下のリンク先を参照してください。

令和7年度 今冬の急性呼吸器感染症(ARI)総合対策(厚生労働省)

<https://www.mhlw.go.jp/stf/index2025.html>

令和7年度 急性呼吸器感染症(ARI)総合対策に関するQ&A(厚生労働省)

[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryou/kenkou\\_kekkaku-kansenshou/influenza/QA2025.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou_kekkaku-kansenshou/influenza/QA2025.html)

「高齢者インフルエンザ予防接種のご案内」(千葉市)

[https://www.city.chiba.jp/hokenfukushi/iryo\\_eisei/seisaku/elderly\\_influenza.html](https://www.city.chiba.jp/hokenfukushi/iryo_eisei/seisaku/elderly_influenza.html)

※ 感染症発生動向調査とは、感染症の発生情報の正確な把握と分析、その結果の国民や医療機関への迅速な提供・公開により、感染症に対する有効かつ的確な予防・診断・治療に係る対策を図り、多様な感染症の発生及び蔓延を防止することを目的としています。

<参考>千葉県感染症情報センター

[https://www.pref.chiba.lg.jp/eiken/c\\_idsc/index.html](https://www.pref.chiba.lg.jp/eiken/c_idsc/index.html)